
Window

クルーガー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Window

【Nコード】
N4137E

【作者名】
クルーガー

【あらすじ】
窓の外に見えるのは…季節は私たちを惑わしてしまう。

「あつい…」

志穂は首に流れる汗を拭う。

「夏だからねー」

返事をしたのは隣のチャラ男高橋。

志穂は平然としている高橋を横目で睨み窓の方を向いた。

「そこ、俺の席だったのに。」

志穂は外を見たまま何も答えなかった。

あの日知ってしまった事実と自分の想いに戸惑っていた。

高橋が志穂の席にいた時いつも外を見ていた。

今の志穂のように。

ただ何となくだと思っていた。

けれどそれは理由があったのだ。

この窓から見えるもの。

そう保健室。

純潔を表す白に支配された部屋。

そこには皆の憧れである保健医の桜木先生が椅子に座って作業をしていた。

高橋が好きなのは桜木先生なのだ。

志穂は事実を知ると同時にやって来た自分の感情に無意識に胸を摩る。

高橋がすきなんだ。

自分の想いに気付いた志穂。

けれどそれは失恋さえも意味していた。

「……だよ…」

高橋が何かを言っているけど志穂には聞こえなかった。
聞こえないふりをしていた。

今はそっとしてほしい。

ただ身体の熱と共にこの恋が冷める事を願った。

ベルが鳴る。

高橋は何か言いたそうな顔をしたけれどそれ以上は何も言わなかった。

教室は沈黙に包まれ志穂は安堵のため息をついた。

恋なんて気付いたらしてるもんなんだ。

気付かないうちに己の中に侵入する感情。

もう一度外を、保健室に目を向けた。

カーテンが閉めきられている。

その隙間から男女が抱き合う姿が見えた。

志穂はそれを鼻で笑うと一人ごちた。

「あつい…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4137e/>

Window

2011年1月26日23時21分発行